

〓8・6水害 9・3水害から30年〓

土砂災害から命を守るために



小野慰霊碑公園

川辺地域小野地区は平成5年9月3日に上陸した台風13号の影響で、大きな被害を受けました。9人がお亡くなりになり、19人が重軽傷を負いました。

この慰霊碑公園は犠牲になった人々を慰霊し、災害の記憶を風化させないために整備されたものです。現在は、市民の憩いの場にもなっています。

小野慰霊碑公園で遊ぶおののもりこども園の園児たち

今年8・6水害、9・3水害から30年になります。9・3水害は本市に甚大な被害をもたらしました。皆さまの記憶にも残っていることと思います。

近年、温暖化の影響により、各地で大きな災害が発生しています。その中でも、大雨による浸水被害や土砂災害が多く見られるようになっていきます。

そこで今回は、土砂災害から命を守るために必要なことや関係者の声を紹介します。



土砂災害から命を守るために最低限知っておくべき3つのポイントを紹介します。

1 お住いの場所が、土砂災害警戒区域か確認

土砂災害のおそれのある地区は「土砂災害警戒区域」や「土砂災害危険箇所」とされています。普段から自分の家があるかどうかが「南九州市総合防災ハザードマップ」などで確認し、避難の際「どこにどのように逃げるのか」知っておくことが大事です。

ただし、土砂災害警戒区域などなくとも、土砂災害が発生する場合があります。近くに「がけ」や「小さな沢」があれば注意が必要です。

2 土砂災害警戒情報や雨量の情報に注意

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう。これは、「警戒レベル4」相当情報であり、市が「警戒レベル4避難指示」を発令する目安となる情報で、災害が発生するおそれが高まっていることを示しています。

土砂災害警戒情報、気象庁ホームページや鹿児島県の砂防課などのホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されます。

3 「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難

お住いの地域に「土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当情報）」が発表されたら、市からの「警戒レベル4避難指示」の発令に留意し、気象庁の「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）」などを参考にし、地域内の方々に声をかけあい近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人や、夜中に大雨が想定される場合は、「警戒レベル3高齢者等避難」が発令されたタイミング等で早めに避難することがより安全です。

土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。浸水などで避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、家の中でより安全な場所（がけから離れた部屋や2階など）に移動しましょう。

普段から避難訓練に参加し、避難に慣れていれば避難行動を起こしやすくなります。自主防災組織など（自治会・地区公民館）が行う土砂災害の避難訓練に積極的に参加しましょう。

日ごろから防災知識を身につけて備えをしておきましょう



防災安全課長 今村 博文

当時、私は小野地区の隣の集落に住んでいましたが、災害発生時は夜で停電になっており、テレビや電話も使えず、懐中電灯の明かりで窓枠から吹き込んでくる雨水をタオルで拭きながら、じっと夜が明けるのを待っていました。

外が明るくなるにつれて消防車やパトカーのサイレンが鳴り響き、自衛隊車両やヘリコプターが飛び交い始めたものの何があったのか情報を得ることができませんでした。

停電になっていない地域はテレビニュースなどで小野地区の災害が速報で放送されており、災害場所の近くに住んでいながら現状を知らないという恐ろしさを感じたのを覚えています。

日本では毎年、自然災害により多くの人命や財産が失われています。これらの自然災害から命を守るためには、日ごろから防災知識を

身につけて備えをしておく必要があります。

特に、災害のおそれがある場合は、防災情報をキャッチして迅速に避難することが大切です。

防災に関する情報は、状況によっては生死をわける場合があります。気象庁や市などから発表される情報は自ら積極的に取得し、「自分の命は自分で守る」ことが重要です。情報を取得するには、さまざまな方法がありますが、一つの方法に頼るのではなく、複数の方法で確認できるようにしておきましょう。

また、自分が住んでいる地域は周辺にどのような危険な場所があるのか、市から配布された「南九州市総合防災ハザードマップ」で確認しましょう。

梅雨時期や台風シーズンは、予め気象情報などを把握しておき、危険と感じたら早めの避難をお願いします。





※上記は平成5年当時の小野地区被災状況写真

平成5年9月3日の 小野土石流災害を振り返って



小野自治会長 中蘭 純一

当時、私は愛知県に住んでいました。台風13号の情報を伝えるテレビを夜遅くまで見ていたら、突然、土石流災害発生のテロップが流れ始め、「鹿児島県：川辺郡：川辺町：小野で……。」と、表示されました。えーっ、小野？と、凍りつくような強い衝撃を受け、電話で親の声を聞くまで生きた心地はしませんでした。

あれから30年の歳月が流れようとしている今、私は、故郷の小野に住み、自治会長として活動しています。9人の方が亡くなるなど、多くの犠牲を払ったあの災害の教訓を少しも風化させることのないよう、海上自衛隊在職中の知識経験も活かしつつ、いま訓練等に取り組んでいます。

例えば、地域特性（山すそ）を重視した防災講座、自主防災組織のあり方の継続的な検討及び装備品の確認、あるいは消火訓練などを毎年実施しています。

さて、最近では、高度化した災害発生の予測情報や市町村が発令する警戒レベルなどから、命を守るための避難行動も判断し易くなっており、自治会としても早めの情報発信や避難の声掛けなどに努めています。

最後に、地域の園児が無邪気に走り回る小野慰霊碑公園が、これから先の30年も、私達の穏やかな暮らしを見つめる公園であり続けるようにと願っています。